

# 気虚の病態と治療に関する基礎知識

富山医科薬科大学 和漢薬研究所 和漢薬製剤開発部門 猶 忠人

図1 中国伝統医療の生理と病理

人体は正気（陽気と陰液）で生命維持と抗病反応を行い、正気の低下病態が虚証です。

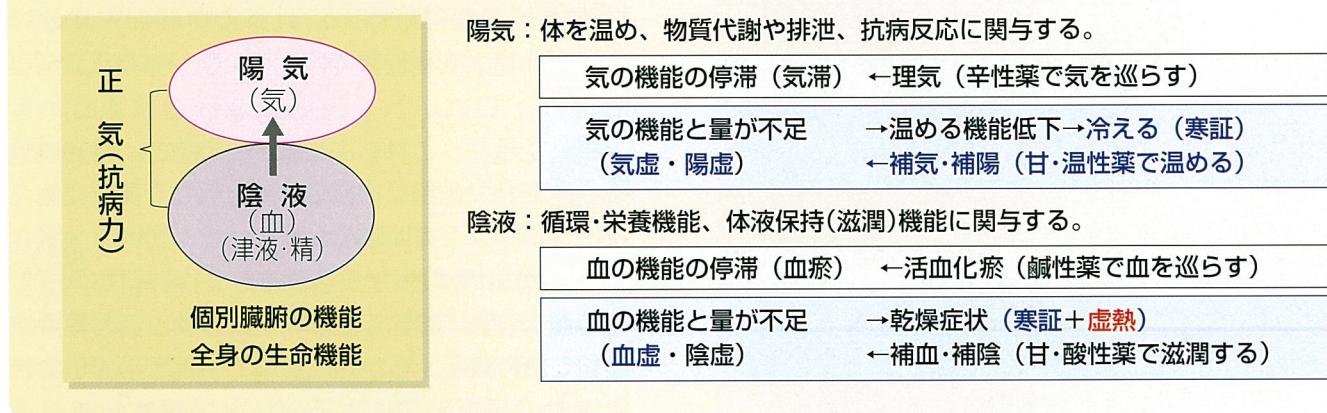


図2 中国伝統医療の病理の虚証と実証

生薬の字の色は赤字：熱証用、青字：寒証用

### 正気の失調および病邪・病理産物邪の過剰による病態（虚証は寒証傾向になる）



◎日本漢方では病理を意味する「陽虚と陰虚」の用語を用いない。

日本漢方の「陰虚証」は陰証（寒証）を呈する体力の低下した虚証患者。  
中医学の「陰虚」は陰液（血と体液）の量と機能が虚（不足）している病態  
(寒証が主体ですが口の乾燥や足の裏のほてりなどの虚熱証を呈する)

図3 気虚：気の量と機能の不足（主として寒証）

臓腑の機能低下として弁証される（ここでは代表的な脾と肺を記載した）

気の虚証病理：気虚証・陽虚証（気の運行が不足し臓腑の機能が失調した病態）

肺気虚証（慢性の咳嗽、喘息、息切れ、疲労感、易感冒）【脾胃気虚と併発】

寒証←黃耆、膠鈎、胡桃肉 （人参、甘草、山藥）

西洋参→熱証

（現代中医学では人参の代わりに党参が用いられる）

◎脾胃気虚証（食欲不振、消化不良、腹部膨満感、疲労倦怠感、易感冒）【痰飲や血虚と併発】

寒証←黃耆、白朮、大棗、膠鈎 （人参、甘草、山藥、茯苓、蓮子）

西洋参、薏苡仁→熱証

気虚下陷証  
(中気下陷) 気虚証（食欲不振、消化不良、腹部膨満感、疲労倦怠感、易感冒）  
下陷証（筋肉の緊張度低下、内臓下垂、子宮脱、脱肛）

寒証←黃耆、白朮

（人参、甘草、茯苓）

柴胡、升麻→熱証

## 1. 陽気と陰液(図1)

**中医学の生理と病理：**健常状態は正気(陽気と陰液)が調和した状態です。正気の不足(病理の虚証)が病態の本因です。

**陽気：**生命・体温維持、代謝異化排泄機能、抗病力(免疫機能)などの概念で、氣ともいわれます。臟腑毎に氣がありますが、とくに脾と肺と腎の氣虛が重要です(腎の氣虛は腎陽虚といいます)。

**陰液：**生命維持と抗病力に関与する人体構成成分です(血で代表させますが、津液、精も含みます)。循環・栄養機能、体液保持機能などの概念です。個別臟腑毎に陰液がありますが、とくに肝と心と腎の虚証が重要です。

## 2. 病理の虚証と実証(図2)

**中医学の虚実：**虚証は正気の不足、実証は病邪の過剰という病理を意味します。

**実証：**病邪(体外の寒邪や熱邪)や病理産物(体内的瘀血など)が多い病態です。**桃核承氣湯**は瘀血や氣滯という病理の実証を「瀉する(少なくする)」処方です(体力の実証に用いますが、血の停滞という実証の調整剤です)。

**虚証：**正気(気と血の量と機能)の不足病態です。人參湯は気虚証を「補う」処方です(この気虚は日本漢方の体力の虚証に相当します)。

**実証：**中医学は「病邪・病理産物」の過剰病態；日本漢方は「体力や反応性」の顕著な状態  
**虚証：**中医学は「正気(气血)」の虚衰病態；日本漢方は「体力や反応性」の低下した状態

## 3. 気虚を調整する生薬(図3)

**気虚：**胃腸虚弱、食が細いことに起因する病態です。とくに**脾胃気虚証**がよくみられる病態で、食物から気を補充するために脾胃気虚の治療は重要です。

**脾胃気虚証：**胃腸虚弱による抗病力の低下病態です。人参や黃耆などの補氣薬を用いる指示です。四君子湯を基本とする関連処方(六君子湯、補中益氣湯、十全大補湯など)および建中湯類で気虚を補います。

**肺気虚証：**呼吸器系の虚弱状態です。柴朴湯、參蘇飲を用い、遷延化した状態には竹筍温胆湯、麦門冬湯などが用いられます。

**Q：** 図3の気虚下陷は聞き慣れない言葉ですが？

**A：** 支持組織の筋力が低下したアトニー症状(気虚スコア10点)の見られる病理です。人参・黃耆などで補気し、**升麻・柴胡**で氣を昇提(上昇)させる金元医学理論です。気虚下陷を調整する補中益氣湯は胃アトニー以外に、子宮脱や脱肛に用いられます。(脱肛に用いる乙字湯も**升麻・柴胡**の薬対を含みます)

### 日本漢方の生理観

教科書的な生理は中医学と同様ですが、厳密に議論することをさける傾向にあります。

### 日本漢方の氣

気逆(気上衝)として、のぼせ、イライラ、頭痛など精神機能として気が用いられます。桂枝、厚朴、紫蘇葉を気に働く薬剤としています(中医学の理気薬)。

### 日本漢方の水

体内の水の偏在した病態(水滯)を水毒と称します。この水は中医学の津液に相当します。また消化器系の水滯を痰飲といいます。

### 日本漢方の虚実

体力や闘病反応の程度を(腹力などから)虚実に診断します。

### 実 証

闘病反応の強い病態を実証とします。(ex.: **桃核承氣湯**の効能効果には「比較的体力があり…」のように実証に用いることが例示されています)。

### 虚 証

闘病反応の弱い病態を虚証とします。(ex.: 人參湯の効能効果には「体質虚弱の人…」のように虚証に用いることが例示されています)。これは中医学の虚証に類似します。

### 气血水論

吉益東洞は気虚の病態を補氣する考えを意識的に避けましたが、息子の南涯が「气血水」論として穩当に修正しました。

### 気虚の診断基準(寺澤教授)

30点以上が気虚

10点：身体がだるい、気力がない、疲れやすい、内臓のアトニー症状

8点：風邪をひきやすい、舌が淡白紅・腫大、脈が弱い、腹力が軟弱

6点：目中の眠気、眼光・音声に力がない、小腹不仁

4点：食欲不振、物事に驚きやすい、下痢傾向

図4 脾胃気虚証に関連する病理と処方

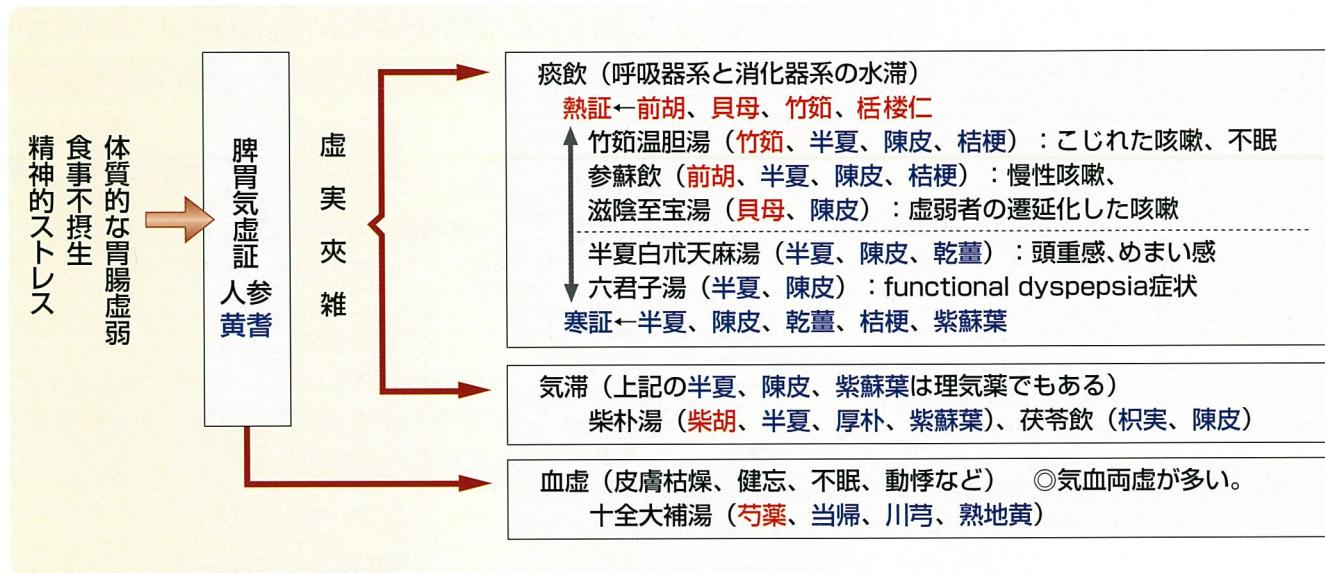


図5 四君子湯・六君子湯・補中益気湯と関連処方

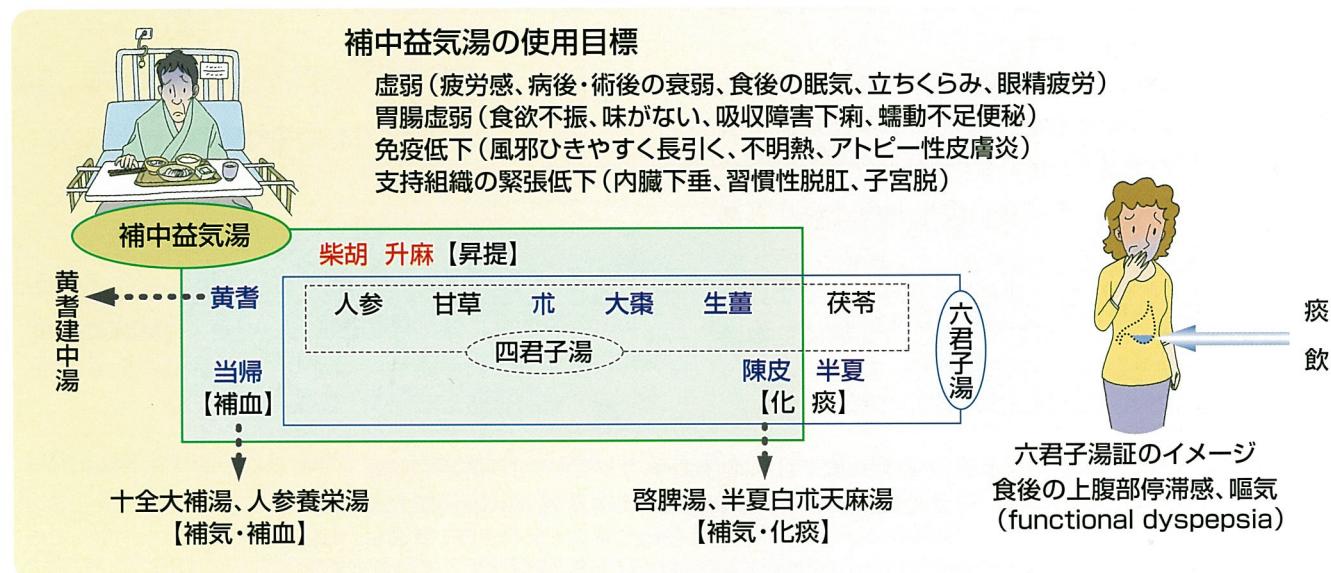
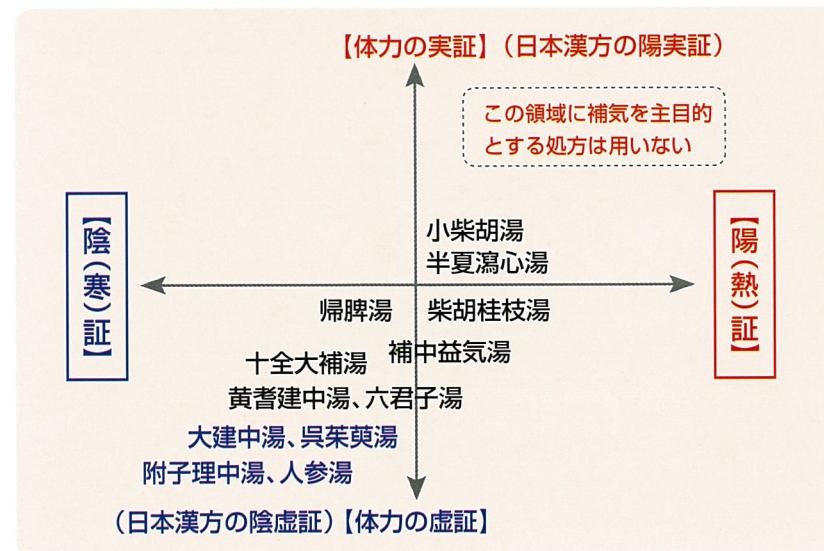


図6 補氣関連処方の日本漢方分類



腎陽虚 : 老化、慢性疾患などで腎の陽気が虚衰した病態  
(八味地黄丸が基本処方)

疲労倦怠と冷えが主症状であり、知覚の衰え、生殖機能低下、運動能力や活力の低下が認められます。



八味地黄丸証のイメージ

## 4. 気虚に関する病理と処方(図4)

**気虚・痰飲(虚実夾雜)**：肺気虚の結果、呼吸器系に水が溜まります(sputumに相当する痰飲)。柴朴湯や參蘇飲や滋陰至宝湯を用います。これらは補氣・化痰・理氣剤です。

脾胃気虚の結果、消化管に停滞した痰飲には六君子湯、茯苓飲、半夏白朮天麻湯で排除します(釣藤散にも同様の薬能があります)。

**気虚・血虚(气血両虛)**：気虚の結果、血の循環や栄養・滋潤作用が低下し、疲労感に息切れや皮膚の乾燥症状が重なります。これには補氣剤に当帰や地黄など補血薬を加味した十全大補湯や人參養榮湯が適します。

**Q：** 「虚実夾雜」をもう一度説明してください。

**A：** 病理の虚証と実証が同時に認められる病態です。六君子湯の適用は気虚(胃腸虚弱)という虚証と痰飲(胃内停水)という病理の実証があります。日本漢方では六君子湯は(体力の)虚証に用いる処方といいますが、中医学は病理の虚実の夾雜した病態だと診断します。

## 5. 脾胃气虚の基本処方「四君子湯」と関連処方(図5)

**四君子湯**：脾胃气虚の基本処方は四君子湯ですが、単独で用いられるのは稀で、補中益気湯や六君子湯や十全大補湯などに組み込まれています。

**補中益気湯**：疲労倦怠感を改善する人参・黄耆、当帰剤です。気虚を調整する四君子湯と、気虚下陷を引き上げる升麻・柴胡の配剤された処方です。慢性疲労性症候群の不明熱やMRSA感染予防にも有用です。

**六君子湯**：気虚と痰飲という虚実夾雜状態に用います。機能性胃腸症のような食後の上腹部停滞感に用いられています。

**桂皮と補氣剤**：桂皮は脾と腎の陽気を温め補うので補氣剤に配合されます。桂枝人参湯、当帰湯、十全大補湯、八味地黃丸など。

## 3. 気虚を調整する生薬(図3)

**縦軸の虚実**：図6の縦(Y)軸は日本漢方の体力の余力の程度を意味する実証と虚証です。補氣剤の多くは左下(日本漢方の陰虚証を意味する領域)に分類されます。

**補氣薬の使い分け**：薏苡仁、茯苓、黄耆、白朮、蜀椒、陳皮、半夏、乾薑は気虚と水滯(痰飲)を補気し利水する生薬です。一方、人参、甘草、山藥、大棗は補気と生津の薬能があります。

**「気虚+寒証」が陽虚**：陽虚は寒証が顕著な気虚証に相当します。附子が補陽薬の中心で、真武湯や桂枝加朮附湯および八味地黃丸が補陽剤です。

### NUDに六君子湯

運動不全型の上腹部停滞感や嘔気(functional dyspepsia)に対する六君子湯の有用性が二重盲検比較試験法で評価されています。

### 小児の起立調節障害に半夏白朮天麻湯

立ちくらみ、疲労感、頭重感に半夏白朮天麻湯が有用です。

### 補中益気湯と十全大補湯・人參養榮湯

共に四君子湯の関連処方です。十全大補湯には四物湯が含まれますので、機能(気)だけでなく構成成分(血)の不足も調整できます。皮膚の乾燥が十全大補湯や人參養榮湯の投与指針になります。

### 日本の四君子湯は6生薬

四君子湯の原典は人参、甘草、茯苓、白朮の4味処方ですが、日本では大棗と生薑を加味した6味処方が用いられています。六君子湯も大棗と生薑が加味された8味処方です。

### 術後の補剤

手術は気虚を惹起しますので術後は補氣剤の適用になります。疲労感には補中益気湯、腸管通過障害には大建中湯が用いられます。なお気虚と血虚が同時に認められるので十全大補湯の適用にもなります。

### 建中湯類も補氣剤

臍痛に用いられる桂枝加芍薑湯、小建中湯なども虚弱児の気虚を補気する機能を有しています。

### 大建中湯と当帰湯も補氣剤

人参の補氣と乾薑の温中を基本にした処方です。当帰湯は冷え症女性の狭心症様の痛みや背中の痛みに用いられています。

### 安中散も補氣剤

冷えによる腹痛や生理痛を桂皮、茴香で温め延胡索で疼痛を軽快します(当帰芍薑散と併用)。

### 八味地黃丸と六味丸

日本漢方では高齢者には八味地黃丸を用い、虚弱児には六味丸を用いてきました。腎の陽虚と陰虚の病理論は不十分ですが、まあ適切な判断です。